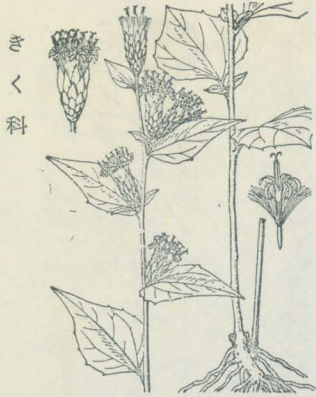


第 3245 図



きく科

かこまはぐま

*Pertya hybrida* Makino  
(= *P. macrophylla* Nakai;  
*Macropertya hybrida* Honda)

武蔵野及び周辺の丘陵地に屢々生ずる多年生草本で、高さ 50cm 内外、茎は稍々硬い草質で軟毛を生じ、直立し年々枯死する。葉は広楕円形、長さ 6cm 内外のものが稍々多数茎上に等間隔に生じ、中部辺ではその腋に貧弱な枝が出る。葉の表面は暗黄緑色、稍三行脈状、縁に疎な歯牙様鋸歯があり、裏は蒼白で光沢がある。秋に茎の上部の小形化した各葉の葉縁に長さ 2cm 許りの頭花をつける。総苞は太く楕円体、乾膜質の苞片重なり、紫に着色、小花は多数で桃色。和名はカシワバハグマとコウヤボウキとの間(マ)との意で、武州大箕谷(今の東京都杉並区)の大宮八幡宮で著者がはじめて発見した。兩種間に随時生ずる一代雑種である。

第 3246 図



きく科

ひろはていしょうそう

*Ainsliaea cordifolia* Fr. et Sav.  
var. *Maruoi* Makino.

テイシヨウソウは葉型に可成りの変化がある。元来東は千葉県から太平洋斜面を四国中央部にまで低山を主にして分布するが、基準は長楕円形で低いが明瞭の鋸歯がある。遠州辺から東では屢々広卵形になって欠刻の著るしい株を生ずる。この極端型をヒロハテイシヨウソウと呼んだ。これに対して紀伊半島から四国へかけては、円形に近くなり、縁辺殆んど全縁に近い型となる。要するに一種類内の地理的変異であろう。

第 3247 図



きく科

まるばていしょうそう

*Ainsliaea fragrans* Champ.  
var. *integrifolia* Kitam.  
(= *A. integrifolia* Makino)

九州の中部以南の林下に生ずる多年生草本。地上に 2-5 葉を座生する。葉は越年生、葉身は 3-10cm の帯卵長楕円形、円頂深心脚、若い時は葉柄と共に汚白黄色の長軟毛を密布するが、伸びると表面は縁に褐毛の隈取りを残して淡緑色の光沢に富む様になる。裏は淡緑色で伏した毛が著るしい。盛夏に葉心から花茎を抜き、高さ 40cm 位に達して、白色の花をひらく。頭花は開花時には側々下向し、総苞は瘦せて長さ 7mm 内外、小花は 3 個。瘦果は有毛で、冠毛は淡褐色、8mm 許、絹状光沢がある。本種に似て葉に毛の少ない型が基準種でアオイハグマといい、台湾及び中支那に分布する。(図は乾燥標本に依った)

たかおひごたい

*Saussurea sinuatoides* Nakai

関東中部の山地の林下路傍に生える多年生草本で、高さ 15-50cm。株全体に淡緑色、粗雑だが軟かい毛がある。葉は長柄を具え、両側にバイオリン状の大きな彎入を持った卵形から長卵形で、有尾鋭尖頭、浅心脚、長さ 10cm 内外、それに細鋸歯がある。本種の中心(秩父山地の南半)を去るに従って上記の彎入が次第に消失する傾向があり、全く失った型をアサマヒゴタイ (var. *serrata* N.) という。晩秋に二三の頭花を繖状につけて淡紫花を開く。小花は 20 個内外。総苞は緑色の狭長楕円体で上がくびれ、長さ 15mm 内外。苞片は各々の中央から急に折れて開出反捲する。花時に集合葯が汚碧黒色で高く花冠外に突出する。和名は原産地の高尾山に因む。

こうしゅうごたい

*Saussurea amabilis* Kitam.  
(= *S. obvallata* Nakai non Wall.)

秩父山地から富士川流域へかけての古期岩石の山地、殊に湿気の多い岩盤上に生える多年生の草本。根茎から年々 1 茎を立てる。高さ 30-70cm、屢々上部が稍々傾垂する。全体に瘠形で葉形と共に雅趣に富む。葉は下部では長柄を具え、披針状長卵形、長さ 10-25cm、漸尖頭、軟脚、茎中部では短柄、梗脚となる。いずれも裏面が美しい白色の綿毛で覆われている。盛夏に入ってから茎頂に 2-7 個の頭花を稍々集ってつけるが、総苞は太い楕円体で長さ 17mm 内外、先端が反捲した巾広 (3mm 巾) の苞片はその縁が紫色に染まり又白い毛がからむ。開花は秋に入ってからで、紅紫色、和名は甲州三ツ峠山に発見されたのによる。

ちょうかいあざみ

*Cirsium chokaiense* Kitam.

東北地方の鳥海山の高山帯に群生する大形の多年生草本で、高さ 1m を超える。根茎あり、茎は筒形直立し、全体に白い軟毛が密生する。葉は開出してつき、鮮緑色で稍々光沢、剛直で有刺、長さ 20-40cm、羽状欠刻を具え、下部のもの有柄、上部では稍々茎を抱く傾向がある。盛夏に茎頂に集合して頭花をつける。その径 3cm 位、濃紫色で美しく、盛開しても點頭している(図では腊葉から描いたため上向す)。総苞は浅い腕状乃至短楕円柱状で、径 3cm 内外、苞片は広線形のもの密に並び、外片は短かくて白い糸がからみつき、内片は長く、紫色且つ甚だ粘性である。東北及び北関東の高山帯には近似の別種夫々オニアザミ (*C. nipponense* Koidz.) 及ジョウシュウオニアザミ (*C. Okamotoi* Kitam.) を産する。

第 3248 図



きく科

第 3249 図



きく科

第 3250 図



きく科